



時流をつかむ
企画制作・山梨日日新聞社広告局

グローバルな規模で情報化社会が進み、IT(情報技術)は日々進化を続けている。国レベルから、企業、一般住民にまで欠かせない存在となったIT。時代の需要に即応し、世界に通用するIT製品を作り出しているのがNECコンピュータテクノ(甲府市大津町、那須賢治社長)と山梨日本電気(大月市大月町真木、水戸郁夫社長)だ。情報処理技術と通信技術の融合を意味する「C&C」(コンピューター・アンド・コミュニケーションズ)という構想を故小林宏治NEC元名誉会長(大月市出身)が提唱してから約30年。県内2工場で生産されたIT製品は世界で幅広く活用されており、両社は今、ITとネットワークを融合した次世代ネットワークの構築に向け、新たな一歩を踏み出している。

NEC

日本電気株式会社 甲府支店
〒400-0858 甲府市相生2-3-16 TEL. 055-224-4141

NECコンピュータテクノ株式会社
〒400-0055 甲府市大津町1088-3 TEL. 055-243-4111

山梨日本電気株式会社
〒401-0016 大月市大月町真木747 TEL. 0554-23-2111

山梨から世界へ 進化するITで豊かに

NECグループは、企業ソリューション、パーソナルソリューション、モバイルターミナルなど10のユニットで構成。その中で、NECコンピュータテクノは「ITプラットフォームビジネスユニット」、山梨日本電気は「キャリアネットワークビジネスユニット」にそれぞれ属している。

■トップレベルのスパコン開発 「トヨタ生産方式」で収益向上

アイメッセ山梨の真向かいにあるブルーの建物が、NECコンピュータ製品の国内唯一の生産拠点であるNECコンピュータテクノだ。1985年に甲府日本電気を甲府市丸の内に設立し、5年後の90年、現在地に新社屋を建設した。2002年に茨城日本電気との統合再編を機に現在の社名に変更。従業員約800人のうち、甲府事業所には約720人(茨城事業所は約80人)が勤務しており、約4分の3の従業員を地元採用している。

敷地面積約12万平方メートルの甲府事業所内では、コンピューター機器や業務専用端末の開発・設計・生産などを手掛けていて、スーパーコンピューターは国内をはじめ、海外の省庁、大学、自動車メーカーなどで使われている。地球規模の気候変動や地層・地殻変動の解明を進めるため、文部科学省が横浜市の金沢八景に建設した地球シミュレーター施設でも同事業所のスーパーコンピューターが活躍。運用を開始した02年当時、40テラフロップス(1テラフロップスは浮動小数点計算が1秒間に1兆回)という、世界最速の処理速度を誇る「超スーパーコンピューター」として米のメディアにも取り上げられた。現在では65テラフロップスの製品を生産しており、処理能力は世界トップクラスを維持し続けている。

行政や一般企業向けサーバーの生産も主軸の一つ。長年培われてきた技術から、ユーザーからの信頼も厚く、1カ月に約1万2000台を生産している。IT業界の市場調査をしている民間会社によると、国内PCサーバーのシェアで同社は10年連続でトップをキープしているという。

IT市場を取り巻く環境は、インターネットの普及などに伴い、ここ10年で激変した。NECグループは、世界標準の機器を効率よく生産するための改革を98年に開始。導入したのが「トヨタ生産方式」だった。それまでの生産ラインは、大半の工程が自動化されていたが、「自動化は多額の設備投資が必要な上、時間内に限られた量しか生産できない」という結論に達し、人による手作りラインを構築。資材調達、出荷方法の見直しなど、徹底した無駄の排除を行った結果「自動化以上の収益を上げることが可能になった」(同事業所)という。



今後の方針などについて語る(右から)山梨日本電気の水戸郁夫社長、NECコンピュータテクノの那須賢治社長、日本電気甲府支店の水上修一支部長(=甲府・NECコンピュータテクノ)



「トヨタ生産方式」を土台として市場競争に打ち勝つコスト構造をつくり上げる努力は今後も続く。那須社長は「中国などの安価な労働力に頼ることなく、国内で生産活動を継続していくためには、従業員の知恵と努力を最大限に発揮し、一人当たりの生産性を上げていくことが不可欠です」と話す。

■光通信支える最先端デバイス 光海底中継器も活躍

一方、中央自動車道大月ジャンクション付近を通る際、北側に見えるU字型のユニークな建物が山梨日本電気だ。同社は86年、世界初の通信デバイス専用工場として操業を開始。敷地面積4万7000平方メートルの工場には約180人が勤務している。

同社では「光のIC」ともいわれる光導波路(石英ガラス基板上に光を閉じこめ、光を伝送する路を形成したもの)を基盤技術とした光集積化デバイスの生産と技術開発に努めている。光通信ネットワークを構成する各種装置や端末には、光ファイバーを伝わる光信号と、装置や端末を動かすための電気信号との間に変換機能が必要で、同社ではこの機能を小型で使いやすい形で実現した光トランシーバーを主力製品として生産している。

光ファイバーによる家庭向けのデータ通信サービス(FTTH)は、世界的に爆発的な増加傾向にあり、国内では既に500万以上のユーザーがいるといわれる。研究・開発を重ねて生産される同社の製品がサービス充実のために果たしている役割は大きい。

また、世界中の都市を結んでいる光海底ケーブルの中継器も10年ほど前から生産している。「光信号は数千キロにも及ぶ海底ケーブルを伝わっていくと、減衰してしまいますので、信号を増幅する機能を持った中継器を数十キロ間隔で設置する必要があります」

と水戸社長は説明する。また、海底地震計、津波計装置の製造も行っていて、気象庁や東大地震研究所、防災科学技術研究所などが導入しているという。光アクセスネットワークと、これを束ねるバックボーン(長距離)ネットワークは、いわば「車の両輪」の関係。ネットワーク全体の高速・大容量化が進む中、同社は常に最新技術を世界に提供し続けている。

さらに、同社では携帯電話やノートパソコンなどのディスプレイの開閉スイッチとしての機能を持つ磁気感応型(MR)センサーの開発・生産をしていて、生産量は1カ月に1000万個を超える。

■環境に配慮した取り組み 地域活動にも積極参加

ハイテク製品を生産している傍ら、両社とも環境に配慮した取り組みも忘れてはいない。NECコンピュータテクノでは生産ラインをコンパクト化したことで消費エネルギーの抑制や、産業廃棄物の排出削減に成功。山梨日本電気でも生産用純水の100パーセント再利用や、生産用排水を工場の外に出さない「完全クロードシステム」を実施している。

地域社会に溶け込んだ活動も積極的に展開している。NECコンピュータテクノは、事業所周辺のクリーン作戦や老人ホームでのボランティア演奏会を行い、山梨日本電気も地元少年野球チームに同社のグラウンドを開放したり、クリーンキャンペーンなどを実施している。また、県内のNECグループ会社としては、春に行われる「信玄公祭り 甲州軍団出陣」に毎年参加している。前身である甲府日本電気を含めてNECコンピュータテクノと山梨日本電気は、県内への進出から20年以上が経過した。両社は地域に根差しながら世界に通用する製品を今後も作り出していく。

沿革

- 1969年7月 NECの国内営業拠点として、甲府営業所(現甲府支店)を開設
- 70年4月 山梨市にNEC山梨工場を建設し、各種伝送システムの製造を開始
- 85年11月 甲府日本電気株式会社を設立し、コンピューターの開発設計を開始
- 86年6月 大月市に世界初の通信デバイス専用工場としてNEC大月工場を建設し、操業開始
- 90年5月 甲府日本電気株式会社の本社工場を甲府南部工業団地内に建設し、スーパーコンピューター、汎用(はんよう)コンピューターの生産を開始
- 98年3月 山梨日本電気株式会社を設立し、NEC山梨工場とNEC大月工場を併合
- 2002年3月 山梨日本電気株式会社を大月工場に一本化(本社を大月市へ)
- 02年4月 甲府日本電気株式会社と茨城日本電気株式会社を統合再編し、NECコンピュータテクノ/株式会社と社名変更(本社は甲府市)



NECコンピュータテクノ株式会社
社長 那須 賢治

当社は、次世代ネットワーク(NGN)時代を創造するNECグループ会社の一員として、お客さまに満足していただけるサービス・製品のご提供を第一に考えております。スーパーコンピューターをはじめ、各種ソリューションビジネスを支えるメインフレームコンピューター、ハイエンドサーバー、IAサーバー、金融・流通業向けお客さま専用端末、マルチメディア端末など、幅広いコンピューター機器の開発・生産を担当し、NECを通して世界のお客さまにご提供しています。また、当社は単独でこれらの開発・生産を通して培ってきた独自の幅広い技術を生かして、お客さまのビジネス上での設計・生産・システム作りをご支援・ご提供させていただいております。これからも当社独自のノウハウを駆使し、製品作りのために精進を込めて「お客さま、地域社会と共に成長するグローバルな魅力ある企業」を合言葉に、事業活動を行って参ります。



山梨日本電気株式会社
社長 水戸 郁夫

当社は、一九八六年六月に世界初の光通信デバイス専用工場として、大月市で操業を開始し、今年六月に操業二十周年を迎えました。この間、多くの新デバイスの開発・量産を遂行してきており、九八年四月には大月工場二期棟を稼働、国内最大規模の海底中継器生産工場となりました。山梨日本電気は、世界一級の「光デバイス」・「光海底中継器」を卓越した生産力・生産技術力をもって供給することで、情報通信社会の構築に大きな役割を果たしてきています。現在、当社が世界に向けて訴求する製品群は、高速光トランシーバー、アクセストランシーバー、MRセンサーならびに光海底中継器と着実にその競争力を高めており、次世代通信ネットワーク社会の実現に貢献しております。また、当社は環境保全に配慮し、地域の皆さまに信頼される企業でありつづけることを目指しております。